

(8) 有害赤潮広域共同調査

予算

「水産庁委託：平成 25 年度漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業のうち赤潮・貧酸素水塊対策推進事業（瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発）」

結果の概要

1. 魚介類の斃死原因となる有害赤潮等分布拡大防止のための発生モニタリングと発生シナリオの構築

・瀬戸内海東部海域（夏季調査）

瀬戸内海東部海域において、魚類の斃死原因となる有害プランクトンの広域モニタリングを行うとともに、その情報を関係者に迅速に伝達し、被害の未然防止に努める。夏季調査においては関係機関の地先海域ごとに、*Chattonella* 属の赤潮の発生状況を整理して既存の発生シナリオとの適合状況を検討したところ、過去のシナリオは近年の発生状況には当てはまらないことがわかった。今後、本年度実施した整理結果をもとに、新たな発生シナリオの策定に努める。

2. ノリ色落ち原因ケイ藻の発生モニタリング、発生機構解明、予察技術開発

・瀬戸内海東部海域におけるノリ色落ち原因ケイ藻の出現諸特性の解明と発生予察（冬季調査）

瀬戸内海東部海域において、ノリ色落ちの原因となるケイ藻類の発生モニタリングを行うとともに、その情報を関係者に迅速に伝達し、色落ち被害の軽減に努める。冬季調査においては関係機関の地先海域ごとに、*Eucampia zodiacus* の発生状況を整理したところ、発生年と局所発生年があること、灘、海域ごとにその共通性があることが分かった。加えて、流動モデルの開発のために必要な水温・塩分のデータを取得し、整理した。

担当者

山本圭吾、秋山 諭、中嶋昌紀